



鎌倉市職員として これからも市民生活向上のため 誇りを持って働き続けたい



鎌倉市図書館



「つらい子は図書館へいらっしやい」

図書館では事務職員の他、図書館司書という専門職の職員が働いています。

本の貸出だけでなく、長期的な視野に立った選書や保存、調査研究のための資料・情報の提供、子どもと本をつなぐ読み聞かせ等のサービス、暮らし等に役立つ事業を行っています。専門性と継続的な経験の蓄積が必要な仕事です。

「死ぬほどつらい子は図書館へいらっしやい」という鎌倉市図書館のツイートが話題になりましたが、これは20年以上現場で経験を積んでいる正規職員の司書が書いたものです。「図書館の自由に関する宣言」も背景にした内容で、多くの人の目に留まりました。

しかし、鎌倉市は22年間、図書館司書を採用していません。このままでは、専門職としての司書はいなくなり、これまで蓄積されてきた知識や技術が継承されず、図書館サービスの低下が懸念されます。鎌倉市職労及び図書館では毎年のように司書の正規採用を求めてきましたが、叶わないままです。



学校技能員

子どもたちが安全に学ぶために

学校技能員は、学校施設の維持管理・補修をします。その傍ら、子どもの相談相手をすることも珍しくありません。学校技能員は、子どもたちが安全に勉強できるよう校舎の内外で、日々の気配りをしています。

高木剪定作業では、命綱を付けて10m級の本木を剪定しています。これを外部委託で行うと、すぐに対応できないばかりか、何十万円も費用がかかります。仲間同士の研修で高い技術を持った学校技能員の存在は、財政的にも効果がある一例です。

専門性が 生きる 職員の奮闘

作業センター

迅速に対応しています

道路、ガードレール、側溝、公共下水道、水路、緑地など、市が管理する施設の維持補修は、作業センターで行っています。市民の皆様からの連絡を受け、応急的なものを中心に、平成26年度は約2,600件の作業に出動しました。

高い技術も自慢です。職員が直接行うことによる迅速かつ臨機応変な対応で、市民の皆様気持ちよく生活していただけるよう心がけています。

環境センター(清掃職場)



現場の経験を活かした創意工夫の清掃職場

清掃職場の現業職員は、ごみの回収作業だけを行っている訳ではありません。新規事業の際には、収集方法や事故・トラブル防止まで、今までの経験や先行事例の収集、学習を元に職場で話し合い、市民の方々からいただいた意見や情報を反映させています。日常の作業を通じて感じとった改善点を継続的に議論し、常に質の向上を図っています。

高齢化等への対応では、安否確認を含めた収集業務(ふれあい収集)として、ごみ出しが困難な方々の自宅に伺い収集をしています。市民のプライバシー保護のため、市の職員が直接行うこと(直営)が求められます。谷戸や細い路地の奥にお住まいの方も、ごみ出しの大変さを抱えています。市民の負担を少しでも軽減するため、以前から軽自動車を活用した収集に取り組み、少しずつその範囲を広げてきました。

また、風水害時にも、清掃職場は直後から復旧作業に携わってきました。災害時には、発生直後の迅速な対応が、救える人命数を左右するといわれています。市内の災害対応

や、各地への災害ボランティアによる経験や知識をもとに対応策を議論しています。

現在、清掃業務の委託化が進められ、直営の業務は1割を切りました。職員の採用を求め続けていますが、18年間、採用がなく、技術や知識を引き継ぐことができません。それでも、直に市民のみなさんの声を聞き、問題や課題の改善・解決を心がけています。



3人に1人は非正規職員

鎌倉市役所では、数多くの非常勤嘱託員やアルバイト職員など、いわゆる「非正規職員」が、削減された正規職員に代わって市の業務を支えています。今や非正規職員なしに市の業務は動きません。また、多くの市では、正規職員の削減は限界に達し、採用を増やしています。組合では、非正規職員の処遇改善要求とともに、正規職員をきちんと採用するように求めています。

二度と赤紙を配らない、 平和への取り組み



かつて、市町村の戸籍係が召集令状(赤紙)を配達して、戦争の一端を担っていた時代がありました。組合でも、二度と赤紙を配らないため、平和運動を進めています。今年は、安全保障関連法(戦争法)に反対する様々な市民運動に参加してきました。



ピースパーレード in かまくらにも参加

現場の声を生かして行政改善

職員は、仕事を通じて市民のみなさんからのさまざまな要望を聞いて市政に反映するように考えています。

- 市民のみなさんとの研究集会で要望が出された正月三が日の歩行者天国
- 保育環境の充実や子どもたちのため、毎年、正規職員の保育士を採用しています。

様々な課題にも 取り組んでいきます

市政運営について、市民のみなさんに満足いただけていない点も、まだまだあるかと思っています。組合は、仕事はチームで取り組む、複数の目でチェックをできる人員体制などを求めてきました。引き続き、信頼される市政を目指します。